

1株に100個なる

「1株で100個なり、味もよい」という種苗店(片山種苗)の話聞いて、万次郎(声優)を作ってみた。本当だった。正確に言うと200個なる。

しかし月に種まき、1月の初霜で一気に枯れる晩生の品種なので、10月以降に開花、着果したものは、11月の収穫時期には未熟な状態だから、完熟した方がマヤが収穫できるのは、やはり100個くらい。

味は粉質と粘質の中間で、食感と香りが特許に良く、糖度も高い。ラズビーボールぐらいの大きさになり、重さは8、4グラム。1株で2、3個に広がるから、10個の畑なら、4株で十分。これまで何回も作っただけ。畑によって出来不出来がある。よくできる畑は、耕土が深く、日当たりと排水が良い。土づくりをしておけば、さ

らに収穫が上がる。

長く耕して鳥害防ぐ
保湿のために鎮圧を

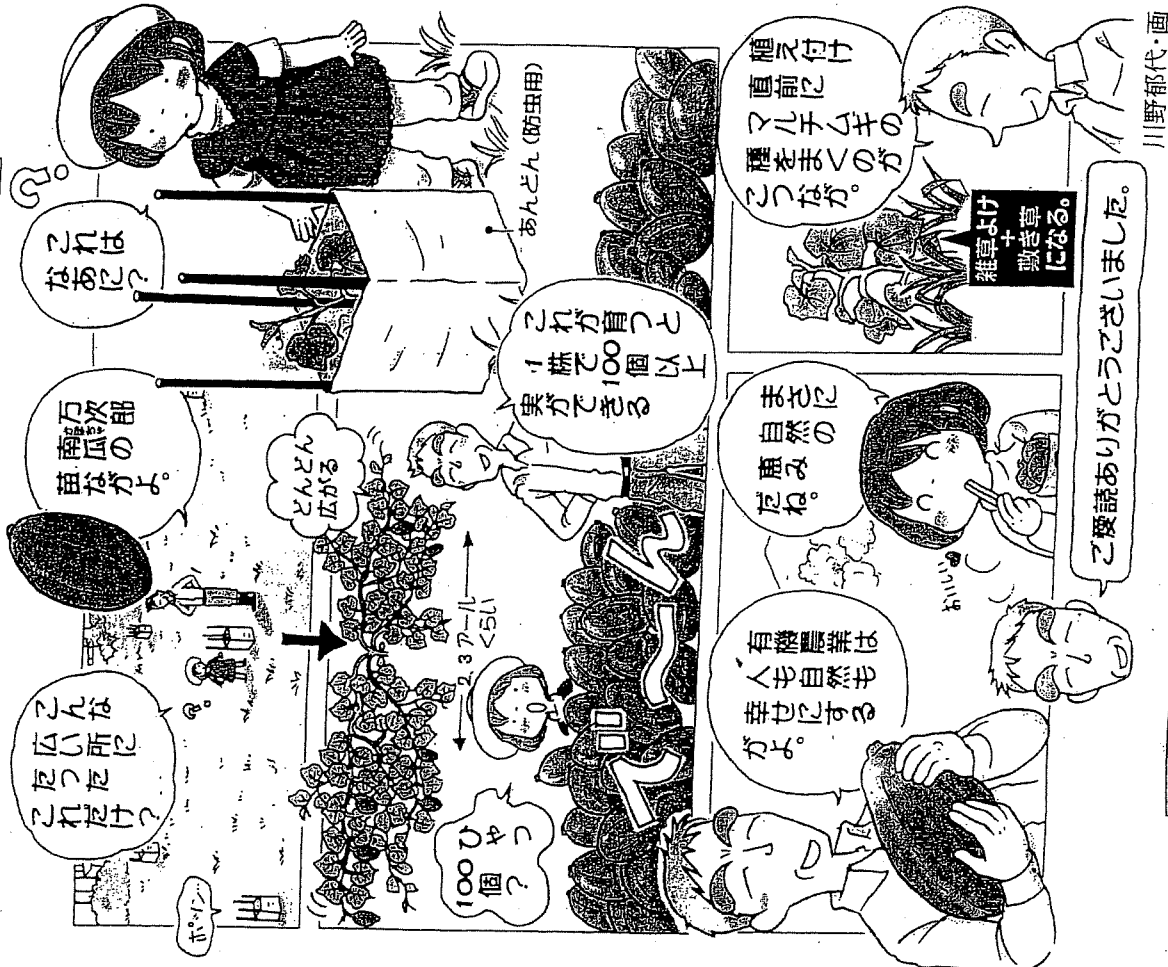
まき作り方。圃場の場合は10センチの面積を作るから、雑草対策として、5月の種まき直前に総肥のマルチ(カネコ種苗)の種子を10センチあたり5グラム、畑にできるだけ均一にまき、トラクターで深さ5センチに浅く耕うちして、鎮圧ロー

ーを掛け、寝かすようにする。深く耕うちして雑草覆われる程度に鎮圧するのは農家対策。圃場の目的は保湿。これをしておかないと種まきが何日も経てば、極端に発芽が悪くなる。

マルチは、8月ごろまで旺盛に生育し雑草を抑制する。そして、暑さで自動的に枯れる。その後は敷き草となる。元肥として10センチあたり糞肥成分10グラム、土を堆肥をひと目以上前に入れておく。

元肥が間に合わない場合は、即効性のN-P-K肥料を適量、葉元に追肥する。土づくりが済んだ畑なら、無施肥でできる。

万次郎南瓜 作るう



種まきは直後に、株間に支柱を4本、正方形の位置に垂直に立て、横糸分に切った30センチの米袋を正四角柱状にかぶせて、いれゆるあんどんにする。これで、カリハシの食害が防げる。その前に前記のN-P-K肥料をバラバラと一握りほどまいて、初期生育を促す。

葉っぱの先があんどんの上で、2、3枚伸び始めたら、あんどんと支柱を撤去する。

あんどんは、つる先が四方に伸びるように時々誘引してやる。摘芯は不要。伸びていくつるの4節に1個ずつ実がついていく。

自家受粉しないため別のカボチャを混植

あ、そうか。この万次郎南瓜のうちの1つの特徴は、雌花しか咲かないことにある。従って自家受粉しない。そのため受粉用に別のカボチャを混植する必要

がある。品種は万次郎と生育時期がそろって、~~カボチャ~~などの日本カボチャが良いのだが、僕は食べてもおいしいひょうたんカボチャを種えている。スツキを一時期をずらして種えている人もいるそうだ。

さて、とうとう最終稿。最後になさき、有機農業の「こ」について。有機農業の技術を実話めていくと、生物多様性の確保とその活性に行き着く。これ

は、作物は人間が作るのではなく、豊かな自然力に根柢された生産性の高い農地と環境が、良い作物を作るという考えだ。

賢明な消費者が真に求めているのは、消費行動を通じた健全な社会の構築とそれに寄与することだから、有機農業の趣旨と流通の拡大は、そのための「産消共同作業」と言える。

この共同作業を突破口に、世界に誇る日本の環境文化を取り戻そう、と僕は言いたいわけである。

読者の皆さんへ愛蔵ありがとうございます。

定植後「あんどん」を

(山下 隆)

有機農業は人びと自然を幸せにするがよ。

川野郁代・画